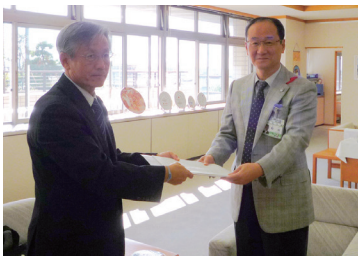
いしかわ労福協

第 550 号 2013年11月25日
発 行 所 石川県労働者福祉協議会
発行責任者 狩山 久弥
編 集 人 上野 貞彦
〒920-0024 金沢市西念3丁目3番5号
電話（076）231-1737
FAX（076）231-1731
http://www.ishikawa-rofukukyo.jp
info@ishikawa-rofukukyo.jp
毎月1回 25日発行

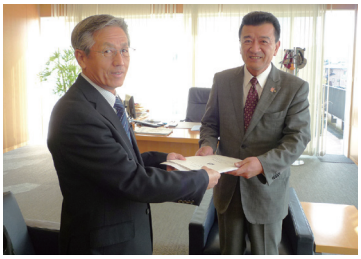
来年度の政策・制度などを県知事らに要請

石川県労働者福祉協議会は、各自治体担当者への事前説明等を済ませ10月21日(月)に野々市市以南の加賀地区、23日(水)から24日(木)にかけて津幡町、内灘町以北の能登地区の各自治体首長を、狩山久弥理事長を先頭に宮下専務理事、山口隆北陸労働金庫石川県副本部長らに加え、関係自治体の協力議会議員と地元地域ライフ・サポートセンター代表者の同行で訪問し、労働者福祉の向上に向けた来年度の政策・制度等に関する要請を行った。

山野之義金沢市長



和田愼司小松市長



粟貴章野々市市長

首長らは、公務多忙の中にも係わらず快く面談され、当労福協等が要請する事項について「真摯に受け止める」との対応だった。

首長らからは、労働者はもとより住民が安心して生活できる環境作りや、生活困窮者らの支援など、自治体が取り組んでいる施策・サービスが紹介されたほか、住民福祉の向上などに連携・協力していきたいなどとの意見の交換がされた要請行動となった。

谷本正憲石川県知事

さらに、11月19日(火)には山野之義金沢市長を、27日(水)には谷本正憲石川県知事をそれぞれ訪ね要請した。

油野和一郎かほく市長

狩山理事長は、「今年4月1日から一般社団法人に移行したことを機に、これまで以上に労働者をはじめとした県民・市民の福祉の向上、より良い社会づくりに向けて、労福協とライフ・サポートセンターが連携してより一層公益性の高い活動への取り組みを推進していきたい。今回は格差社会の是正、貧困の連鎖を食い止めるためにも教育・人材育成の面での機会均等の施策を充実していただきたいことなど要請事項の実現に理解と協力をいただきたい。」と述べて、来年度に向けた要請の実現を各自治体に強く求め今年度の要請とした。

平成26（2014）年度石川県及び市町の施策に対する要請（概要）

Ⅰ．石川県に対する要請事項【政策関係要請事項】

1．格差・貧困社会の是正、セーフティネットの強化

（1）ナショナルミニマムの確保と生活の底上げ
生活保護制度における８月からの生活扶助基準の大幅引き下げにより、これに準拠する市町事業の就学援助制度、県事業である奨学金事業などの諸制度について、７月までの基準と同水準の支援を、県事業については堅持するよう要請するとともに、市町事業については関係市町に同趣旨の協力を要請します。

（2）新たな生活困窮者支援制度に向けた体制整備
①生活困窮者を幅広い地域諸団体で支える新たな生活困窮者支援制度として検討されている相談窓口の担い手として民間非営利組織が参画できる仕組みを導入するよう要請します。
②また、生活困窮者や多重債務者の支援を目的に「生活再建支援事業（相談貸付事業等）」を行う民間非営利組織が活用できる公的信用保証制度の形成を要請します。

2．経済的理由で夢を断念させない～教育・人材育成での機会均等
世代間の貧困の連鎖を防止し、地域社会の底上げを図る観点から、義務教育終了後の公的奨学金制度を創設・充実・改善することを要請します。また、県として、国に対しても同様の施策が取り組まれるよう要請いただきたい。
①世帯収入や学業成績に関係なく、希望に応じて奨学金を貸与すること。
②貸与奨学金は全面的に無利子とすること。
③水準を一定程度の生活費まで保障できるよう改善すること。
④世帯収入が低い学生に対する無償給付型奨学金制度を創設すること。等

3．連帯経済を促進する協同組合自治体・行政との協働関係の充実
国連が宣言した2012年「国際協同組合年」を経て、連帯経済を促進する上で、行政と協同組合との関係を単なる業務委託ではなく、目的や基準（公正労働基準）を明確にした対等なパートナーシップに基づく協働関係へ再構築していただきたい。そのため、協同組合が指定管理者制度等の公共サービスに参加できるよう制度を見直し、地域福祉の向上と住民自治の促進を要請します。

4．地方消費者行政の充実と強化

（1）県において、消費者行政予算の確保、地方の消費者行政に携わる人材の支援・育成、消費者相談体制の維持・強化と消費生活相談員の雇い止め問題への対策の実施、行政処分の執行体制の強化など地方消費者行政の充実・強化を要請します。

（2）消費者行政の充実で、悪質商法の根絶を
消費者のみならず善良な事業者や労働者を含めた国民全体の被害を防止する観点から、悪質商法の根絶、消費者行政の充実に責任をもって取り組むことを要請します。

5．「食の安全・安心条例」の制定
2003年に施行された食品安全基本法により、地方自治体には食の安全と安心についての施策の充実が求められているところであり、県において「食の安全・安心条例」の制定を要請します。

6．フードバンク活動の促進
①食品廃棄・ロスを削減するとともに食品として有効に活用する観点から、フードバンクを「新しい公共の担い手」として積極的に位置づけ、この活動に関するセミナー等の開催や地域における取り組みに向けた検討を要請します。
②食料支援システムとして位置づけ、平常時は福祉支援と災害訓練に、災害時はそのままフードバンクのインフラを活用できるようシステムの構築を図っていただきたい。
③フードバンク活動を積極的に取り組んでいる団体を促進・普及するための支援策・補助事業を創設・拡充するとともに、市町の行政とも連携を深める施策を要請します。

7．連合石川「2014年度石川県要請」について
連合石川が提出する「2014年度石川県要請」に対して、県として誠意をもって回答されるよう要請します。

Ⅱ．市および町に対する要請事項【政策関係要請事項】

1．格差・貧困社会の是正、セーフティネットの強化

（1）ナショナルミニマムの確保と生活の底上げ
生活保護制度における８月からの生活扶助基準の大幅な引き下げにより、これに準拠する就学援助制度などについては、７月までの基準と同水準の支援を堅持するよう要請します。

（2）新たな生活困窮者支援制度に向けた体制整備
①生活困窮者を幅広い地域諸団体で支える新たな生活困窮者支援制度として検討されている相談窓口の担い手として民間非営利組織が参画できる仕組みを導入するよう要請します。
②また、生活困窮者や多重債務者の支援を目的に「生活再建支援事業（相談貸付事業等）」を行う民間非営利組織が活用できる公的信用保証制度の形成を要請します。

2．経済的理由で夢を断念させない～教育・人材育成での機会均等
世代間の貧困の連鎖を防止し、地域社会の底上げを図る観点から、義務教育終了後の学生に対する公的奨学金制度を創設・充実・改善を要請します。
①世帯収入や学業成績に関係なく、希望に応じて奨学金を貸与すること。
②貸与奨学金は全面的に無利子とすること。
③水準を一定程度の生活費まで保障できるよう改善すること。
④世帯収入が低い学生に対する無償給付型奨学金制度を創設すること。等

3．地方消費者行政の充実と強化

（1）市町において、消費者行政予算の確保、地方の消費者行政に携わる人材の支援・育成、消費者相談体制の維持・強化と消費生活相談員の雇い止め問題への対策の実施、行政処分の執行体制の強化など地方消費者行政の充実・強化を要請します。

（2）消費者行政の充実で、悪質商法の根絶を
消費者のみならず善良な事業者や労働者を含めた国民全体の被害を防止する観点から、悪質商法の根絶、消費者行政の充実に責任をもって取り組むことを要請します。

4．フードバンク活動の促進
①食品廃棄・ロスを削減するとともに食品として有効に活用する観点から、フードバンクを「新しい公共の担い手」として積極的に位置づけ、市町においてもフードバンク活動に関するセミナー等の開催や地域における取り組みに向けた検討を要請します。
②災害時における食料支援システムとしてフードバンクを戦略的に位置づけ、平常時は福祉支援と災害訓練に、災害時はそのままフードバンクのインフラ（基幹物流、地域物流網）が活用できるようシステムの構築を図っていただきたい。
③フードバンク活動を積極的に取り組んでいる団体を促進・普及するための支援策・補助事業を創設・拡充するとともに、市町の行政とも連携を深めるよう要請します。

5．中小企業労働者の福利厚生の格差是正
「金沢勤労者福祉サービスセンター」は、県内の中小企業に働く勤労者の福利厚生の向上に大きな役割を果たしています。
現在は金沢市をはじめ内灘町、野々市市、かほく市、津幡町の助成により運営されていますが、利用会員は８市、７町にまたがっている現状です。
スケールメリットを発揮できる広域化が重要であり、各市町の中小企業に働く勤労者の福利厚生の向上のために、金沢勤労者福祉サービスセンターへの補助金交付と加入促進の活動に対する協力を要請します。

6．地域ライフ・サポートセンターに対する支援要請について
労働者福祉と高齢者福祉の一翼を担っている地域ライフ・サポートセンターに対する支援と協力を引き続きお願いします。

7．スポーツ、文化事業に対する支援要請について

（1）石川県勤労者体育協会、石川県勤労者文化協会が主催するスポーツ競技や美術展等の事業に対して、各市町の共催、協賛、後援を要請します。

（2）各市町が運営される運動場、体育館、会館等公共施設の利用に際して、使用許可及び使用料の減免措置等の配慮を要請します。

第５回理事会

労福協は、11 月 12 日(火)フレンドパーク石川において第５回理事会を開催した。

理事会には、理事監事 15 名が出席し、始めに浅野正理事が連合石川事務局長を退任し今後は石川労信協を代表して出席することが確認された後、これまでのライフ・サポートセンターや子育て支援ネットによる活動、2014 年度自治体要請行動、労福協 50 周年記念植樹などの取り組み状況の報告を了承した。

また、本年度中間決算報告及び同監査報告、大衆運動活動家合祀追悼会の開催、福祉なんでも相談アドバイザー会議の開催、９月から空き室となっている１階喫茶店舗の活用について、厨房設備機器の老朽化等の事情により一般店舗(事務所等)への転用が理想的であり、これに要する改装工事など、全議案とも提案どおり承認した。

なお、本理事会において久冨象二理事代理は退任となった。

第5回理事会

これからの行事予定

（10 月 25 日現在）

開催日	曜日	行　事	会　場
11月28日	木	中部労福協　役職員研修会（～ 29 日）	東京都
29日	金	第 45 回食とみどり水 NW 全国集会（～ 30 日）	仙台市
〃	〃	中央労福協　第 61 回定期総会	東京都
12月3日	火	消団連 石川県消費者大会	県地場産業振興センター
〃	〃	中部会館協議会 第２回幹事会（～４日）	富山県
6日	金	食とみどり水ＮＷ 幹事会	連合石川
7日	土	労働者自主福祉シンポジウム	労済会館
12日	木	自主福祉シンポジウム実行委員会	金沢市
14日	土	さわやかU 年末餅つきボランティア	金沢市「松寿荘」
17日	火	食とみどり水ＮＷ　第８回総会	フレンドパーク石川
19日	木	労福協第６回理事会	〃
21日	土	勤労者互助会　会員交流「映画鑑賞会」	ユナイテッドシネマ金沢
27日	金	フレンドパーク互助会総会	フレンドパーク石川
28日	土	年末・年始休暇（～ 1/5）	
2014年1月7日	火	労福協・連合石川 2014 新春の集い	ANA クラウンプラザホテル金沢
24日	金	創立 50 周年記念講演会（第 37 回研究集会）	地場産業振興センター

ろうふくきょう・子育てネット

興味深く話に耳を傾ける参加者親子

石川労福協「ろうふくきょう子育て支援ネットワーク」は、10月27日(日)に石川県産業展示館３号館で開催された「子育て支援メッセいしかわ2013」(主催：(公財)いしかわ子育て支援財団)において「ろうふくきょう子育てネット第２回研修会」を同館２階研修室で行った。

主催者も、この催しで研修会を行うのが初めての試みということもあり、主催者の協力・支援の中、『親と子の気付きと癒しのぬりえセラピー』として、アートセラピー講習の高沢優喜子氏が講師となり、合計33家族、71人の親子が参加して開かれた。

アドバイスする高沢先生

研修会では、高沢先生が、親子で同じ絵に色を塗り出来上がったぬりえの塗り方や色使いを見て、現在の心中や今後のアドバイス等を各々の参加親子に行った。「色で私の気持ちがズバリ当てられてびっくりしました！」と驚いた母親や、「親子でぬりえをゆっくりする機会が無いので、とても良い経験になりました」と微笑む父親や「みんなでぬりえができて、楽しかった！」「先生がわかりやすかった！」と喜んだ子ども達がたくさん見られ、とても和やかな雰囲気で研修会が終了した。

当ネットワークでも、研修会の形式でこのイベントを開催したのは初めてだったが、参加者に喜ばれた良い研修会になったと思う。

ろうふくきょう子育てネット　紙谷加奈子

連合石川第25回定期大会開催

連合石川第25回定期大会が、10月25日(金)労済会館で開催された。

大会は、代議員ら構成員、谷本正憲石川県知事をはじめ多くの来賓らが出席するなか、冒頭、狩山久弥連合石川会長が「昨年の定期大会で『働くことを軸とする安心社会』の実現に全ての働く者が連帯して前進することを確認しその取り組みを行ってきた。しかし、政権交代により働く者の環境が脅かされる恐れが大となってきた。これからの一年は、第一に『労働分野の規制緩和反対とディーセント・ワークを保証する社会づくり』のため労働分野の規制緩和反対への取り組み。第二に『労働運動のパワーアップ』として正規・非正規という隔たりを超えて同じ職場で働く仲間同士が結束し、①自組織の直接雇用の完全組織化、②全組織で最低１組織の拡大の取り組み。第三に『政治活動』として、生活者･働く者の立場に立って活動する政治勢力の結集と拡大への取り組み。

第25回定期大会

これら三つの取り組みにより、引き続き『働くことを軸とする安心社会』の実現への協力をいただきたい。」と挨拶した後、議案審議が行われた。

議案審議では、提案した運動方針などの議案が承認、また、任期満了による役員改選では狩山現会長の再選と新事務局長に西田満明氏を選出した後、狩山会長のガンバロウ三唱とともに新体制による2014年度の活動が始まった。

中部労福協研究集会

中部労福協(労働者福祉中部協議会)は、11月5日(火)～6日(水)金沢都ホテルを会場に「2013年度中部労福協研究集会」を開催した。

開会に際し、川口清一中部労福協会長が「持続性のある循環型社会を形成する上でも、労働者福祉の重要性は高い。労働力をアルバイトや派遣に頼る社会構造が貧困層を拡大し格差社会を生んでいる。この集会により、労働者が共に連帯するなどして格差解消への取り組みの一助としたい。」と開会の挨拶に続き、開催地を代表して狩山久弥石川労福協理事長が「再来年春の北陸新幹線開業後の新しい石川県にも、再度お越し願いたい。」と歓迎の挨拶の後、講演に入った。

はじめに「連帯・共同でつくる安心・共生社会の福祉社会へ～労働団体と事業団体の連携について～」と題して渡邉和夫中央労福協副会長が「昨年の国際協同組合年を機に、労働者・労働組合・事業団体・労福協などが相互に連携し共助の輪を広げることが、労働者福祉の向上・事業団体活動の活性化に繋がる。また、非正規労働者や生活困窮者における協同組合の利用を容易にするための公益的制度の設定が必要であり、各団体の理解と共に具体的検討を進めることが課題だ。」などと講演した。続いて「生活保護改革から考える格差と貧困の克服」と題して小久保哲郎弁護士・日弁連貧困問題対策本部事務局次長が「国の財政悪化と社会保障費の増大により、本来制度上、不正受給とならない者へのバッシングや生活保護を受けないことを美徳とする社会的誘導により、生活扶助基準の引き下げとなった。しかし、本来生活保護の受給対象者であっても、利用させない・しない者もいることから、生活保護受給者数の生活保護対象(受給基準に見合う)者数に対する割合(捕捉率)は、15.3%～18.0%とフランス(91.6%)、ドイツ(64.6%)などと比較しても小さい。また、生活保護費の自国のＧＤＰとの比較でも、日本は0.6%程度で、フランス(4.1%)、ドイツ(3.3%)に比較して小さいにも係わらず、今回の改革により、最後のセーフティネットである生活保護の受給者は一層厳しい状況となった。今後は、この段階までに陥らないためのセーフティネットの充実が望まれる。」と講演し初日の集会を終えた。

２日目は、「能登の里山里海」と題して奥本勉石川県環境部里山創成室長が「世界農業遺産認定もあり、里山里海の保全はもとより地域の伝統的農林漁法や古くからの風習・風土・技術を守り伝承することなどで、新たな価値観を見い出して、能登ブランドを高め、特産物などの産業の振興を進めている。」と講演した。最後に「フードの未来『もったいない』を『ありがとう』へ」と題し、大竹正寛セカンドハーベスト・ジャパン・アライアンス事務局長と任田美智代フードバンクいしかわ代表が「食品廃棄の無駄を省き、再利用することで貧困者等への炊き出しや、災害時における被災者への食糧支援などに生かされている。理解と協力で支援の輪を拡めたい。」と講演し、研究集会の全日程を終え、格差社会における共助の取り組みへの見識を深めた。

海外飢餓支援米発送式

食とみどり水を守るいしかわネットワークは、11月16日(土)フレンドパーク石川において、海外の飢餓に苦しむ子ども等を支援する米の発送式を行った。

発送式には、米作りに携わった子どもや生産者らにも参加を呼び掛け、８名の子どもを含む約40名が参加し、子ども等が思い思いに飢餓に苦しむ子ども等に宛てたメッセージを書いた紙を米袋に張り、例年に増して心のこもった贈り物となった。

式後、これまでの取り組みと、支援米がどのようにして、飢餓に苦しむ子ども等に届くかが画像と解説で報告・説明された後、スタッフが収穫したお米で作ったおにぎりと豚汁を振る舞い、収穫の喜びと自然の恵みに感謝し、今年の取り組みを終えた。

なお、今年、県内４カ所で収穫した1,170 kgの米は、マリ共和国とカンボジアにＷＦＰやマザーランドアカデミーを通じて贈られる。

里山里海ボランティア

11月9日(土) ～10日(日)珠洲市日置地区でのクヌギ植林活動が、労福協から2名が参加して行われた。

クヌギの植林活動は、パイロット事業として山間地を果樹園に開発したが、その後の事情により荒れ果てた里山の本来機能を取り戻そうと約10年前から、地元ＮＰＯ団体等が里山づくり運動として進められてきたもの。クヌギは古くから地元の産業として行われてきたお茶炭生産の原料となり、里山保全と伝統産業の継承の一挙両得的な活動となっている。

今回のクヌギ植林活動「第5回おらっちゃの森づくり運動(主催：NPO法人能登半島おらっちゃの里山里海)」は、珠洲市三崎の里山里海自然学校を拠点として11月9日(土) ～10日(日)行われ、実際の植林は、昨年の植林したところで、根付かなかった場所への補植や空スペースへの植林として行われ、地元NPO関係者以外では、石川労福協、連合石川、星稜大学学生等計61名が参加した。

9日(土)の植林当日は、天候に恵まれて作業ははかどり、額に汗しつつ、準備した苗木の全てを植え付け、大きく成長することを願いつつ作業を終えた。

10日(日)は、生憎の天候となったが、最初の植林地でのクヌギの森やお茶炭の製造現場を見学して今回の活動を終えた。

事務局長　上野貞彦

白　山　・　野　々　市　ＬＳＣ

保障設計セミナー

10月19日(土)白山労働会館において保障設計セミナーを開催したところ、男女合わせて50名の会員の参加があった。

セミナーは「お得な情報で豊かな生活を」をテーマにファイナンシャルプランナーの高橋昌子氏が「いつ、何に、いくら必要か」・「支出を減らす」・「貯蓄を増やす」として、「いつ、何に、いくら必要か」をライフプランに書き出し、可視化することの重要性を学んだ。また、「支出を減らす」では、いろいろな支出が収入に占める割合を把握し、税や保険の制度を把握することで、“知って得をする・知らずに損をする”ことが多数あることが分かり、さらに、「貯蓄を増やす」では、“貯める運用(貯蓄)”と“増やす運用(投資)”の違いを学び、「貯蓄や資産運用の目的」について考えさせられ、参加者からは好評を受けた。

このセミナーが、普段、何げなく使っていたお金について考える良いきっかけとなったと思う。

白山野々市地域LSC　事務局長　寺本和広

秋の研修バス旅行

10月27日(日)に恒例のバス旅行を行った。今年は10月に入ってから台風の影響が全国的に心配を増幅させて、企画・計画する役員の心を痛めた。

ところが、当日は予想より早く天候は回復し、参加者のテンションも徐々に上げて行った。44名の参加者は、日頃の厳しい活動より、穏やかな面持ちで会話を弾ませ楽しんだ。

紅葉には少しばかり早く近江路を西へと進み、甲賀市で「松茸・近江牛あばれ食い」を一生分(？)食べ、当分牛は見るのもイヤ～と、お腹をさすった。

続いて信楽焼の工房等を見学、京滋バイパスから世界遺産宇治の平等院など周辺を自由散策となったが、おなじみの(十円硬貨)の建物は改修中のことで外観すら見ることが出来ず、残念。でも、茶処宇治らしく、お茶の香りを満喫して早めの帰路についた。

車中は、日頃会話することもないが互いに行動を共にした仲間意識で会話も弾み、互いに「ご苦労さん、お疲れさん」と参加者全員元気で家路に向かった。

白山野々市地域LSC　会長　油　省三

河　北　ＬＳＣ

ござっさい祭り

河北地域ＬＳＣは、10月27日(日)津幡町倶利伽羅塾での「ござっさい祭り」に津幡町勤労者協議会と共同で参加し物品販売を行った。

この祭りは、ライフ・サポートセンターはコープ石川から、家庭に必要な食料品や果物を仕入れ、市価よりも安く販売するとともに、津幡勤労協では家庭菜園で作った「野菜」を販売し、午前11時頃にすべてを完売した。

なお、事業団体支援として、全労済と労働金庫のチラシをお買い上げの商品と一緒に袋に入れて、それぞれのＰＲを行った。

主催者から、一番良い場所を提供しているので、来年は品物を増やし、12時頃まで販売できるよう工夫をして欲しいとの要望を受けるほどであった。

秋季史跡めぐり

11月9日(土)恒例の秋季史跡めぐり(自然に親しむ鶴来編)が、参加者34名で開催された。ここ数日天気が悪く、天候の回復が心配されたが、当日は絶好の行楽日和に恵まれた。

先ず最初に、白山比咩神社で“御祓い”を受け、樹木公園で森林浴をし、パーク獅子吼の“作り物館”では、今年の「ほうらい祭り」で使われた人形が展示されていて、大きさや、艶やかさに感心させられた。また、獅子ワールド館では、加賀の伝統工芸品である、日本一の木彫『夫婦獅子頭』が展示されていてとても一本の木から彫りだした物とは思えない大きさであった。

その後、紅葉が進む山肌を愛でながら、ケーブルカーで山頂まで上がり、日本海まで一望できる風景を堪能した。

昼食の後、金剣宮に参拝し、小堀酒造では、庭園見学と、日本酒の試飲を楽しみ帰途についた。今年は、いつもガイドを務める幹事の桑江さんが、他の用事で欠席したため奥さんの“桑江はるみ”さんにガイドを務めて頂きました。大変評判が良く、帰りのバスの中では、来年もお願いしますとのアンコールもあった。

河北地域LSC　　吉川武久

勤　体　協

第47回県勤労者秋季体育大会第16回グラウンドゴルフ大会(10月27日・かほく市高松グラウンドゴルフ場)

▽男子　①唐戸山クラブ(羽咋)　②山乃会　③ダブルハマーズ　④白尾ウイナーズクラブ　⑤愛汗(以上かほく)▽女子　①今も姉ちゃん　②ひこうき雲(以上かほく)　③白山ひまわりチーム(白山)　④華・花・鼻(かほく)　⑤今の浜チーム(宝達志水)

第47回県勤労者秋季体育大会第15回サイアーランニング大会(10月27日・金沢市犀川河川敷)

18歳から80歳代までのランニング愛好者134人が30㎞、20㎞、10㎞、5㎞の4部門で健脚を発揮した。

第47回県勤労者秋季体育大会第13回クライミング大会(11月3日・医王山スポーツセンター)

◇一般(45歳以下)▽男子　①畠中実(金沢)　②牧谷勇子(同)　③片倉和彦(同)▽女子　①中島亜希(金沢)　②佐々木史子(同)　③畠中郁美(同)◇シルバー(45～59歳)▽男子　①本谷賢門(白山)　②塚本吉弘(金沢)▽女子　①鮎川弘江(金沢)　②若林千恵(同)　③出戸克美(白山)◇ゴールド(60歳以上)▽男子　①中島昭二(金沢)　②永井武司(能美)▽女子　①向出照子(加賀)　②岡田美智江(野々市)　③谷久子(金沢)◇オープンJr▽男子　①坂本凛藤(白山)　②田中竣也(金沢)　③神志那駿乃介(同)、泉谷七登(白山)▽女子　①山先詩多(金沢)　②本谷佳乃子(白山)　③河村柚香(同)

第47回県勤労者秋季体育大会卓球大会(11月17日・七尾市中島体育館)

◇硬式▽男子　①四十万・オーバーライト　②S－55A　③グロリアB、コマツ▽女子　①NOTOヤンキース華　②勤体協　③NOTOヤンキース月、同虹◇ラージボール▽男子　①白山クラブ　②档の会　③ななおクラブ、のときりしま▽女子　①七尾スターズ　②南加賀クラブ　③内灘クラブ、羽咋卓友会A

※この機関紙は再生紙を使用しています。